大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2022年第7週(2月14日~2月20日)

今调のコメント

~感染症予防の基本~ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 減少傾向」

第7週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は637例であり、前週比1.7%減であった。先週に引き続き1,000例未満で少ない状況である。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.59、0.22、0.13、0.11、0.08であった。

感染性胃腸炎は前週比2%減の511例で、中河内4.00、南河内3.44、大阪市南部3.37、泉州3.00、北河内2.88である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は26%減の26例で、泉州0.55、中河内0.25、大阪市南部0.16であった。 RSウイルス感染症は17%増の21例で、大阪市北部0.57、南河内0.31、大阪市南部0.16である。 咽頭結膜熱は42%減の15例で、大阪市北部0.43、大阪市西部0.30、泉州0.10であった。



表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2022年 第7週2月14日~2月20日)

第7週の 順位	第6週の 順位	感染症	2022年 第7週の 定点あたり 報告数	前週比増減	2021年 第7週の 定点あたり 報告数	2022年第7週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.59	2%減	3.20	2歳_17%
2	2	突発性発しん	0.22	26%増	0.32	1歳_39%
3	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.13	26%減	0.55	4歳,8歳,10-14歳 _15%
4	5	RSウイルス感染症	0.11	17%増	0.66	1歳_43%
5	4	咽頭結膜熱	0.08	42%減	0.13	2歳_20%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	100%減	0.02	

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほ とんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第7週のコメント

〜梅毒〜 大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、 全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあったが、大阪府における2021年の報告数は、2年連続で1,000例を下回った。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待でき

<u>感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)</u> 梅毒とは(国立感染症研究所)

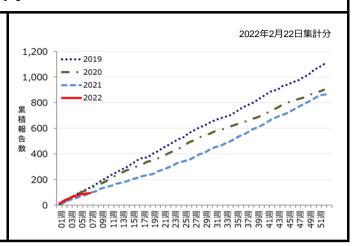


表 2. 大阪府全数報告数(2022年 第7週2月14日~2月20日)

注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ> 【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	二島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数
4 類感染症	4 類感染症 E型肝炎						1				1
5 類感染症	急性脳炎	1							1		1
5 規燃業症	梅毒	5	1			2	1	1			94
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	79,327 2020年1月以降累計 584,14						84,149			
結核	結核 新登録患者数:104名 (内 肺·喀痰塗抹陽性							33名)			
(2021年12月分) (府内累積報告数 1,178名、内 肺・喀痰塗抹陽								易性 4	149名)		

(2022年2月22日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。